道出遺跡第１次・第２次発掘調査説明資料

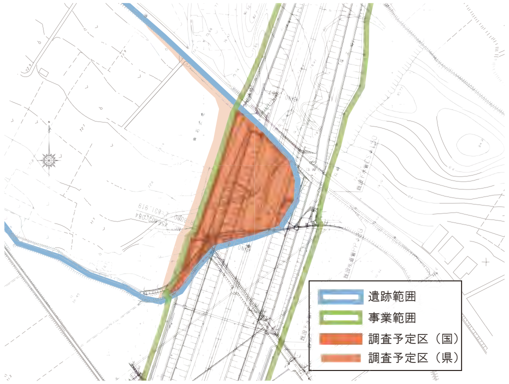
公益財団法人山形県埋蔵文化財センター　　　平成 25 年 7 月 26 日

調査要項

遺　跡　名　道出遺跡 (県番号 NO.208-042)
所　在　地　山形県村山市大字土生田字道出
時代・種別　縄文時代・散布地
起 因 事 業　東北中央道 (東根～尾花沢)　第 1 次
　一般県道大石田土生田線
　（仮称）村山大石田ＩＣ設置工事　第２次
調査依頼者　国土交通省山形河川国道事務所
　山形県村山総合支庁建設部北村山道路計画課
調 査 機 関　公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
現 地 調 査　平成 25 年 5 月 8 日から 8 月 9 日まで
調 査 面 積　4,700㎡
調査担当者　主任調査研究員　髙橋　敏（現場責任者）
　調査員　岩崎恒平
　調査員　板橋　龍
調 査 成 果　（7 月 26 日現在）
　検出遺構　縄文時代：落し穴状遺構　土坑　柱穴　風倒木
　出土遺物　縄文時代：縄文土器・石器・剥片

遺跡位置図（1/25,000）

遺構検出状況　（北から）



調査概要図

1　調査の概要

道出遺跡は山形盆地北端の最上川右岸、JR 袖崎駅の北方約 2㎞で、大石田ゴルフクラブの南側に広がる低丘陵の南端部に立地します。最上川の氾濫原に面した南向きの緩斜面で、スイカや蕎麦などの畑地となっています。

今回の調査は、高速道路用地のうち本線部分の調査を第 1 次、インターチェンジを設置する部分を第 2 次と呼称して調査を実施しました。

調査区は、道出遺跡の南東端部にあたります。第 1 次調査の高速道路本線部分約 3,500㎡と第 2 次調査のインターチェンジ設置工事関連部分約 1,200㎡を併せて 4,700㎡を調査対象として、同時に実施しました。

2　見つかった遺構と遺物

調査区のうち北側の広い範囲では、現代のいくどかにわたる大規模な地目変更や、栽培作物の変換などに伴う土木工事により大きく削平を受けています。遺構確認面からはバックホーやブルドーザーのキャタピラの跡、掘削坑などを明瞭に確認することができます。

検出された遺構は、落し穴状遺構や土坑のほか、性格不明遺構、ピット状遺構や風倒木痕など合せて 920 基ほど確認されています。しかし、どの遺構からも出土遺物がありませんでした。このためこれら遺構の時期は不明です。

落し穴状遺構は散発的に確認されています。けもの道などに何基も連なって設置される様子は見られません。また、円形の土坑も数基見つかりましたが、時期や性格は現時点では不明です。

遺物は極少量の出土にとどまりました。調査区が遺跡の中心から外れているのかもしれません。縄文土器は県の試掘調査で遺構遺物なしとされたトレンチの最下層の埋め土からの出土です。（写真 1）写真の土器は縄文時代中期の大木７ｂ～８ａ式に比定されるものです。しかし、試掘トレンチ以外からの土器の出土はないため、遺跡の年代を決定づけるまでには至っていません。土器の他には、頁岩製の石鏃や石器を製作する際に出来る剥片（石のかけら）が出土しています。（写真２）

写真１　試掘トレンチ出土の縄文土器

写真２　出土した石鏃

3　まとめ

今回の調査では、集落跡をうかがわせるような遺構は、確認することはできませんでした。調査区は遺跡範囲の南東の端にあたり、狩りの場だったのかもしれません。今後調査結果を詳細に検討し、地域の歴史解明の資料としていきます。

道出遺跡遺構配置図

落とし穴状遺構（SK549）

落とし穴状遺構（SK923）

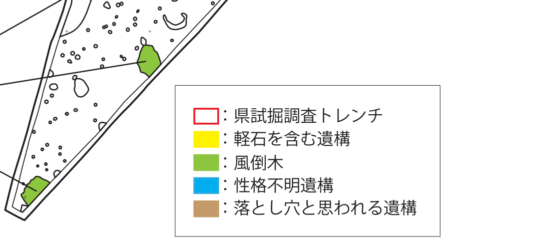
軽石を多く含む遺構（SX620）

黒ボク土を含むピット状遺構

性格不明遺構（SX748(↑)･SX727(↓)）

黒ボク土の堆積した土坑（SK482）

風倒木痕（SX042）



出土した石器